

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 31, No. 1 神奈川県立生命の星・地球博物館 Mar. 2025



博物館は 10年、50年、100年先へ

たなか のりひさ
田中 徳久 (館長)

1: オープニングセレモニーのテープカット(1995年3月20日), 2: イセエビ, 3: ビカリヤ(巻貝化石), 4: マンリョウ, 5: リュウグウオキナエビスの一種の化石, 6: ホウネンダワラチピアメバチと繭, 7: タンチョウ, 8: 自然金, 9: マダイ, 10: ミズヒキ, 11: 博物館外観, 12: スティレミス(リクガメ)の甲羅の化石, 13: 自然銀, 14: 自然銅, 15: ニホンウサギ, 16: ホンシメジ(別名: 大黒しめじ).

生命の星・地球博物館は、2025年3月20日で、開館30周年を迎えます。そこでこれを祝い、学芸員の協力を得て、“おめでたい”資料の写真を集めました。良い例がない分野もありますが、動物や植物、鉱物など、「どこが“おめでたい”？」と悩ましいものも含め、さまざまな資料の写真が集まりました。

この30年間で、当館の収蔵資料は、前身の県立博物館から引き継いだ20万点の資料から、6倍の120万点を数えるに至りました。これらの資料に基づいた学芸員の学術的著作は3,000編に達し

ようとしていますが、集めた資料は研究だけでなく、さまざまな目的に利用されています。また皆さんに1番身近な展示室への入館者も累計800万人を超えました。加えて、博物館の利用者には、講座の参加者やボランティア、質問をお寄せ下さった方など、より深く館に関わって来られたと言える人たちも多数います。

開館30周年を迎えた当館ですが、今後も10年先、50年先、100年先まで、皆さんの学びの場として、親しまれ、楽しんでいただけるよう邁進して参りますので、引き続きの応援をよろしくお願いします。